

市町村の動き

清潔・快適・住み良い環境を提供する安代浄化センター通水式

報告：盛岡地方振興局土木部岩手出張所

6月27日

八幡平市（旧安代町）^{こやなぎだ}小柳田にある安代浄化センターは、通水式を行いました。浄化センターとは、市内から集まってくる下水を微生物の働きによって浄化し、その上澄みとしてきれいになった水を河川等に放流する場所です。そして、通水式とは、実際に下水道が各家庭に接続できるようになることです。

安代浄化センターは、平成14年から着手した過疎地域公共下水道代行事業（県が市に変わって整備を行うもの）で整備を進めてきました。下水を集める区域面積は、53ヘクタールで、処理できる人口は1,600人、処理水量は最大700m³/日となっています。

浄化は、オキシデーションディッチ法（※）と呼ばれる方法で行われ、汚水はセンターの地下1階のオキシデーションディッチ→最終沈殿池→塩素混和池を通った後、浄化水として一級河川^{うつたないがわ}打田内川へ放流されます。

八幡平市が行う各家庭と浄化センターを結ぶ管工事（総延長13,796m）も今年度終了し、平成20年1月には、汚泥処理設備が設置される予定です。

※オキシデーションディッチ法

細長い流れるプールのような槽（オキシデーションディッチ）で、酸素を好む微生物の働きにより汚水の主成分である有機物を分解し、汚水を浄化する方法です。



通水式